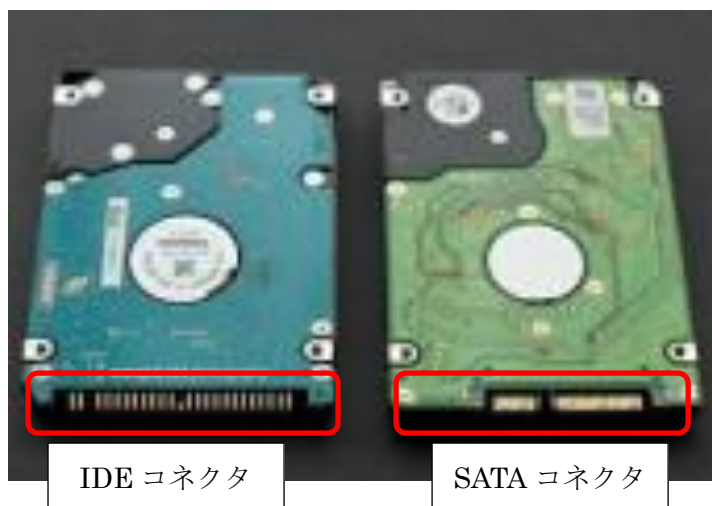
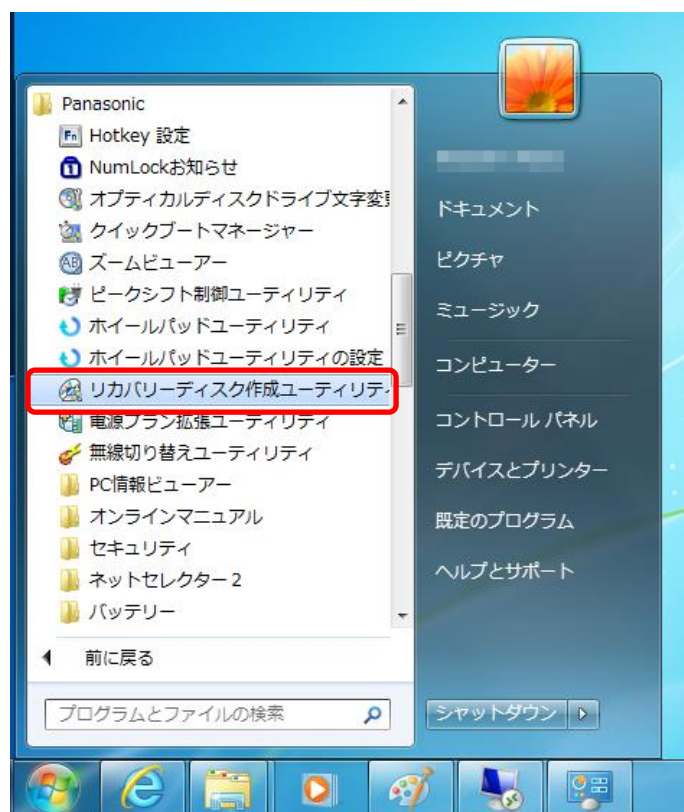
ハードディスクを SSD に交換の仕方。

最近、メーカー製のノートパソコンのハードディスクを SSD（ソリッドステートドライブ）交換をする方が、増えています。
そこで、今回は。ハードディスクから SSD への交換方法を紹介します。

最初に確認をしていただきたいのが、そのノートパソコンが SATA に対応しているタイプなのかと、いうところです。
写真左が IDE コネクタ用で、右が SATA コネクタ用です。
IDE は、ピンが針状で多く出ているのが特徴です。
SATA は、ピンがわずかしか出ていません。
最近のノートパソコンだと問題はないのですが、中古のノートパソコンだと Windows XP の仕様に Windows7 などの OS だけを入れ替えている物もあるので注意が必要です。

手順１（リカバリディスクの作成）

古いパソコンには、リカバリディスクが DVD ディスクなどで同梱されていたのですが、最近のパソコンは、
ハードディスク内にリカバリ領域を作成して、そこからリカバリをするケースが通常となっています。
（一部の機種では同梱されている物もあります。）
同梱されていないものは、ハードディスクを交換する前に、リカバリ用のディスクを作成する必要があります。
※リカバリディスク作成方法は、メーカーや機種ごとで違うので、取扱説明書で確認をしてください。
記録媒体のディスクの種類や枚数なども確認をしてください。**作成後は、大切に保管をしておいてください。**

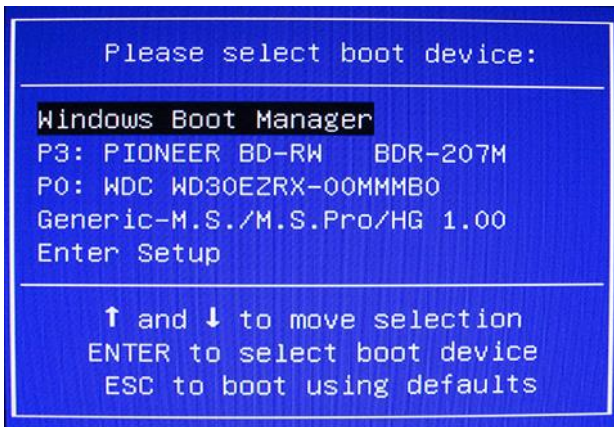
リカバリディスク作成について！
リカバリディスクは、ハードディスクの交換時だけでなく、いつハードディスクが壊れてもいいように、購入後、すみやかに作成をしておいてください。
大半の方が、リカバリディスクの作成方法が解らない、それ自体を知らない方が多くいますので、サポートをする際は、そういった面でもアドバイスをしてあげてください。

手順２
ハードディスクを取り外す前に、電源コネクタはもちろん、バッテリーパックも取り外しておきます。
それ以外にも周辺機器が取り付けられている場合は、全て外しておいてください。

手順３
ハードディスクを取り外します。
基本的には、精密ドライバーのプラスが１本あれば交換はできます。
最近のノートパソコンは、個別にカバーがついており、プラスのネジ数本で止まっていることが多いので、取り外しは簡単に行えます。
ただし、中にはそうでない物もあり、パソコンのカバー自体を外してしまわなければいけない機種もあるので、事前に確認をしてください。

手順４
本体に取り付けられていたハードディスクを取り外します。その時に、ハードディスクに取り付けられている、マウントケースなどがあるので、それを、SSD に取り付けます。向きに注意をしてください。

マウントを取り付けた後、SSD をパソコン本体に取り付けます。
大抵は、スライドをさせるだけで、挿入ができます。

取り外した、ハードディスクは大切に保管をしておいてください。
メーカー製パソコンだと、ハードディスク以外が壊れた場合、SSD に交換をしていると修理をしてもらえない場合があるので、その時はハードディスクを元に戻す必要があります。

手順５
リカバリを行います。
リカバリ方法は、取扱説明書を参考に進めてください。

リカバリを開始する前に、BIOS や EFI などの起動順位を変更しないといけないことがあります。
BIOS や EFI の起動方法はメーカーによって異なっています。パソコンの起動時に「ESC」「F1」「F2」など、いずれかのキーを押すと BIOS や EFI の画面が出てきますので、「Boot」もしくは「起動」の所で、起動順位を変更してください。
「DVD」等の光学式ドライブを１番に設定すれば、次の起動時に DVD などの光学式ドライブから優先的に読み込みが始まります。
リカバリが終了後、初期設定が終われば、通常通り使用できます。